

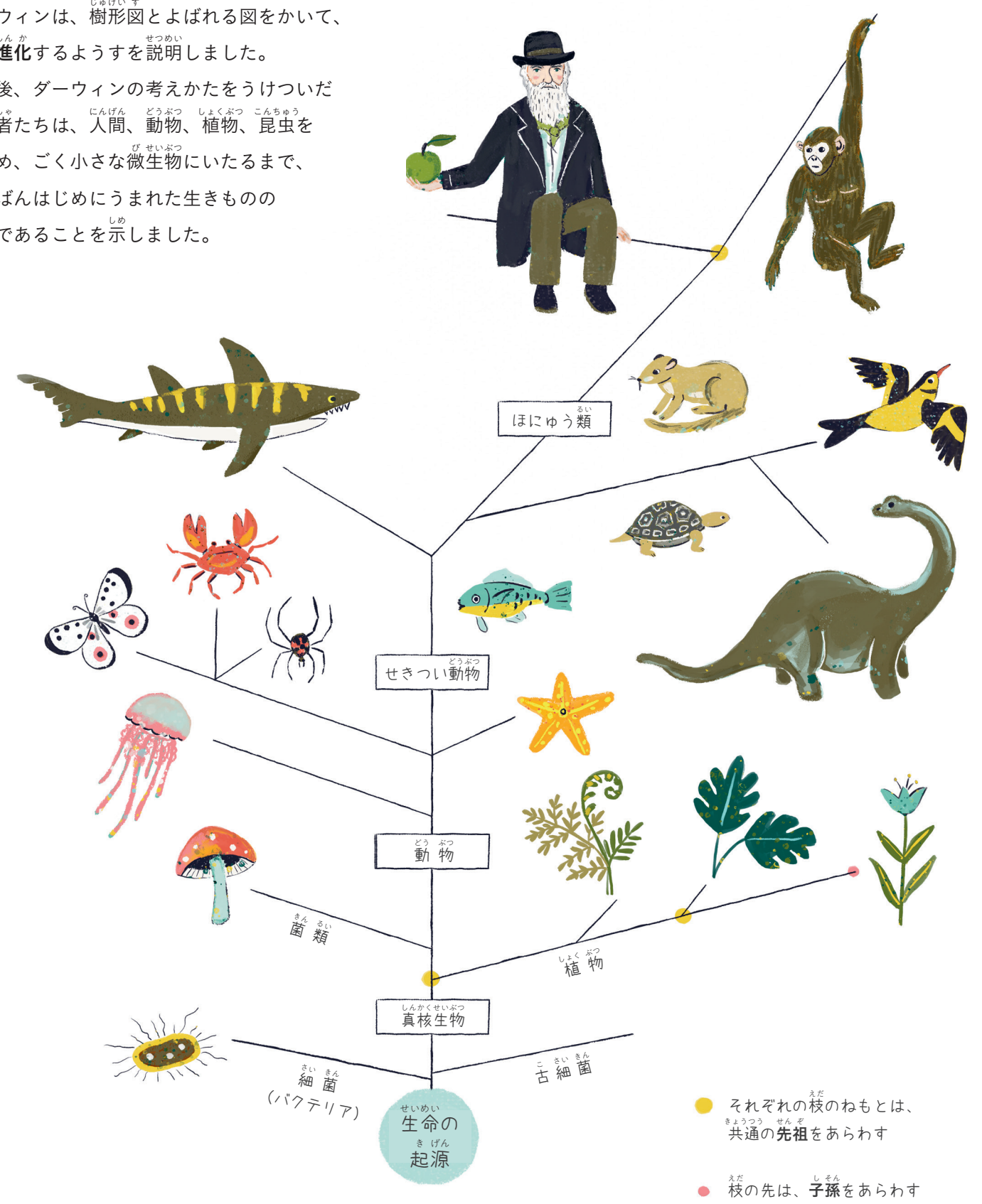


「芽が成長すると、あらたな芽が出る。
強い枝は四方八方に伸びて、
細い枝をたくさん出す。
そして世代がうつりかわるうちに、
大きな〈生命の木〉となる。
枯れた枝や折れた枝が
大地につみかさなるいっぽうで、
たえず伸びつづける枝が、美しい
樹形図をつくって地表をおおうのだ」

ダーウィンは、^{じゆけいず}樹形図とよばれる図をかいて、
^{しゅ しん か}種が^{せつめい}進化するようすを説明しました。

その後、ダーウィンの考えかたをうけついで
^{かがくしゃ}科学者たちは、^{にんげん}人間、^{どうぶつ}動物、^{しょくぶつ}植物、^{こんちゅう}昆虫を
はじめ、ごく小さな^{び せいぶつ}微生物にいたるまで、

いちばんはじめにうまれた生きものの
^{し そん}子孫であることを示しました。



では、生命はどのようにしてはじまったのでしょうか？ いちばんはじめにうまれたのはなんなのでしょうか？
ダーウィンにもわかりませんでした。けれども、ダーウィンの^{りろん}理論は、今日の地球に見られるたくさんの
生きものがどのように^{しん か}進化してきたのかを教えてください。